

# くらし

## Life&Style

者宅を回る。1回の訪問は20分程度。おむつ交換、シャワー介助、食事の提供のほか、服薬管理や血圧チェック、インスリン投与の注射などを担当。訪問先や介護内容、利用

### 介護、看護

# 住まいのスタイル

松野尾 仁美

先日、大阪市で開催された20カ国・地域首脳会議（G20サミット）は、大きく注目されました。さまざまな議題がありましたが、その一つが地球温暖化対策です。温暖化対策は「パリ協定」が国際的な枠組みですが、協定離脱を表明した米国から歩み寄りはありませんでした。実のところ、この面では日本も遅れている現状があります。2020年以降、新築の住宅全てに省エネ性能（断熱性）を持たせる「住宅の断熱性能に関する最低基準の義務化」が18年に見送られ、建築関係者に賛否両論が出ました。パリ協定を踏まえ、16年に閣議決定された地球温暖化対策計画の実現にも影響するのではないのでしょうか。地球環境という規模が大きく感じますが、自分たちの住環境

## エコハウスが防ぐ温暖化



⑤江藤眞理子さんが設計した「熊本パッシブハウス」。一般社団法人「パッシブハウス・ジャパン」の「エコハウス・アワード2019」で、最優秀賞に選ばれた



⑥日光が差し込む窓の下に熱を蓄える素材が使われた室内。冬でも暖かいという

境もその一部です。小さな単位ともいえる住宅性能の向上が、地球環境の保全につながるという意識が必要です。今回、温暖環境に配慮した住宅を設計監理する空設計工房（福岡市）の江藤眞理子さんに、高性能なエコハウスについて伺

いました。「高性能なエコハウスにすれば、温暖環境、湿度環境、空気の質が安定した住環境に住んでいただけます」と江藤さん。それがベースとなれば、身体が楽になり、病気になるににくい。か

かっても治りやすい生活が可能になります。健康が守られ、幸せな暮らしが実現できるというのが持論です。さらに、低燃費になる利点もあります。家を建てる人は建築費に目を向けがちですが、光熱費の負担も考えなければなりません。あらかじめ光熱費を抑え

る設計にして、その費用を高性能化のための建築費に充てれば、健康を守り、地球環境を守ることにつながるはず。昨年、江藤さんが設計監理された熊本県嘉島町の「熊本パッシブハウス」は、高性能の省エネ住宅としてドイツのパッシブハウス研究所に認定申請している住宅です。ご家族に家を建てるなら性能を良くしたい思いがあり、当初から認定を取ってほしいと要望があったそうです。パッシブハウス認定は、ドイツの研究所の基準を満たさなければなりません。ドイツでは、断熱材や高性能な窓、換気システムを取り入れて冷暖房をそれほど使わなくても夏は涼しく、冬は暖かいパッシブハウスが普及しています。高性能の住宅が当たり前になっていくのです。

★江藤眞理子さんは、福岡市早良区西新の九州大西新プラザで開催中の「建築とまちづくりセミナー2019 in 福岡」で13日午前9時、「幸せもつくる～エコハウスの話～」と題して講演する。当日参加も受け付ける。参加費は大人1000円、大学生以下500円。

日本の住宅は、温暖性能が30年は遅れているといわれます。性能の先にある健康や地球環境にも目を向けてみませんか。（九州産業大准教授・1級建築士、福岡市） 11第2金曜掲載



### 人材確保の

ラヒホイタヤい政策研究大学小野太一教授（障論）に聞いた\*

ラヒホイタヤは住み続けたい人が職種の人材が足り合や、将来的に中どで子どもと高齢に過ごせるケア拠っていったときに、肢が増える。少子て保育分野の人材なることが予想さなるに携わってきた人野で活躍し続けても有効